


 ざいそう

初めての転勤で

建山和由



4月。小学校から大学にいたるまで、日本では、すべからく学校が新入生を迎えるこの月、社会でも新しい年度が始まります。人事の移動もこの時期、特に多いのではないのでしょうか。私も学生時代から数えると28年間在籍した京都大学を退職し、4月1日より立命館大学に移りました。京都大学は国立大学ですので社会で言えば官ということになるのでしょうか。方や立命館大学は私立大学で、社会で言えば民になります。国立大学では、スタッフは教官と呼ばれるのに対し、私立大学では教員と呼ばれることからこのことがわかります。もちろん、一般の社会のように官と民の両者の間に管轄や契約関係があるわけではなく、また建設業界のように発注や受注の関係があるわけでもありません。国立大学も私立大学も社会の中では、教育と研究という同じ役割を果たしています。にもかかわらず、長年官制大学の雰囲気浸っていた私からしますと、私立大学に移って晴天の霹靂とまでは言いませんが、驚かされることがたくさんあります。今日は、その辺りのことをとりとめもなく書き連ねてみようと思います。

まず、当然といえば、当然のことですが、国立大学では予算の多くは文部省から支給されますが、私立大学は、財政のかなりの部分が学生からの授業料でまかなわれています。このため、スタッフの数に対する学生数は多くならざるを得ません。限られたスタッフで学生教育を行うわけですから、当然、個々の教員のロードは大きくなりますが、これを軽減するために合理化が図られています。特に事務処理は、すばらしく合理化されており、教員は教育や研究に専念できる体制が整っています。国立大学では、いろんな事務処理を教官が自分で行うことも多かったのですが、大学側からするとその時間や労力を教育や研究に費やしてもらった方が、大学としてプラスになるという判断からか、事務でやれる仕事は事務でこなしてくれ、それがスムーズに行える仕組みができてます。また、国立大学と異なり、助手がいないため、大学院の学生に授業の補助をしてもらうシステムの整備が進んでいます。もちろん、有給ですが、大学院生は単に給料がもらえるだけでなく、教える側になったときの様々なトレーニング

を積むことができ、メリットも大きいようです。

教員が少ないので多くの教員の方々も、それぞれ教育や研究に関わる様々な仕事をこなしておられます。私も今年から赴任したにもかかわらず、早速、学生委員を仰せつかりました。学生委員の仕事は、学生の相談相手、補導や指導といったことですが、最初に関わった学生のヒアリングでいきなり驚かされました。2年生の学生が迷惑駐車2回で停学になりました。ここでは、学生が自家用車で通学することを禁止しています。ほとんどの学生はルールに従い自粛していますが、中には禁を破って乗ってくる学生がいます。そういう学生は、構内には入れないので周辺に駐車するのですが、近隣に迷惑をかけるという意味から、強く罰せられます。彼も1回目は反省文ですまされたようですが、2回目はルールに従い1カ月の停学になりました。この処置には、周りへの迷惑を顧みず自己本位な行動をすることを強く戒めるという大学の方針に基づいているようです。最初は、大学でそんなことまで教えるのかと違和感すら感じましたが、最近の日本では、社会の一員として行動することの基本をどこで教えているのだろうとふと疑問に思い、これもなるほど教育の一環なのかと納得しました。そういわれると、ここでは、学生のマナーの良さに驚かされます。自転車は駐輪場に停めて決して建物の前まで乗り付けることはありません。出入り口を塞いでも、平気で自転車を玄関前に停めて授業に走っていく京大の雰囲気とは正反対です。京大の学生になれた私からしますと、学生のマナーの良さに物足りなさすら感じますが、なかなかたいしたものです。駅前の駐輪問題や路上駐車は今の日本の大都市が抱える大きな問題です。これに困っている都市は多いのではないのでしょうか。ここでの光景を見ると、現在の社会問題の解決策の糸口が見えるかもしれないと思ったりもしています。

国立大学も今年から独立法人に移行し、これから自己改革を進めることが求められます。国立大学と私立大学の違いがどうなるのか楽しみにしています。